

世界の主な火山活動

平成 25 年（2013 年）12 月に噴火したと報告された主な火山（日本を除く）は下図のとおりである。

サンミグエル（San Miguel） エルサルバドル（図中 A） 標高 2,130m

12 月 29 日 10 時 30 分にサンミグエルで爆発的噴火が発生し、1,400～2,600 人が避難した。ワシントン航空路火山灰情報センターは、噴煙が海拔 9.7km まで上昇したと報じている。

エルサルバドルの環境省全国気象情報サービス（SNET）によると、二酸化硫黄の放出量は 29 日に 1 日当たり 637 トン、30 日には 1 日当たり 1244 トンであった。30 日から 31 日にかけて、地震活動は顕著に減少した。

シナブン（Sinabung） インドネシア（図中 B） 標高 2,460m

11 月に引き続き、噴火が繰り返し発生している。ダーウィン航空路火山灰情報センターによると、12 月 10 日には、火山灰を含んだ噴煙が海拔 11.6km まで上昇した。インドネシア火山地質災害軽減センター（PVMBG）によれば、21 日から 26 日にかけて地震活動が活発化し、マグマの上昇と溶岩ドームの成長が示唆された。また、24 日には溶岩ドームが目視できるようになり、26 日には溶岩ドームの総体積が 100 万 m³以上、1 秒当り 3.5 m³の割合で成長していると推定された。30 日には、溶岩ドームの一部が崩壊し、火砕流が南東山腹を 3.5km 流下した。

警戒レベル（1～4 の 4 段階の指標）はレベル 4 が継続しており、訪問者や観光者は、火口から 5 km 以内への立ち入りが禁止されている。12 月 30 日現在、19,126 人（5,979 世帯）が避難している。

（以上、米国スミソニアン自然史博物館の GVP（Global Volcanism Program）による。日付は全て現地時間。火山名の読み方は、原則として気象庁：「火山観測指針（参考編）」による。）

